

# 無線通信研究委員会

## SG 6 (ジュネーブ)

### 報告書

平成 23 年 5 月 23 日～24 日

# 目次

1. まえがき .....	2
2. 議事概要 .....	2
3. SG6 会合報告 .....	4
3.1 SG6 議長による開会の挨拶 .....	4
3.2 議事次第の承認、議事録作成のラポータ指名および前回会合議事録の承認 .....	4
3.3 BR 局長による開会の挨拶 .....	4
3.4 審議開始前の諸説明 .....	5
3.5 各 WP の会合報告、出力文書審議 .....	6
3.5.1 WP 6A 報告概要 .....	6
3.5.2 WP 6B 報告概要 .....	10
3.5.3 WP 6C 報告概要 .....	11
3.6 WP6A, 6B, 6C 以外から SG6 に提出された文書 .....	15
3.7 テキストの状況 .....	21
3.8 今後の開催スケジュール .....	21
3.9 閉会の挨拶 .....	22
4. あとがき .....	22
表 2 入力文書一覧 .....	24

## 1. まえがき

国際電気通信連合無線通信部門（ITU-R）の第6研究委員会（SG6：放送業務）は以下のとおり開催された。なお、本報告書では敬称はすべて省略する。

- 開催日 : 2011年5月23日（月）～24日（火）（2日間）  
開催場所 : ITU本部（スイス国・ジュネーブ市）  
議長 : Christoph DOSCH（ドイツ）  
副議長 : 西田幸博（日本）、Kyung-Mee. KIM（韓国）、Giuliano ROSSI（バチカン）  
（5名は欠席 : Oleg GOFAIZEN（ウクライナ）、Feng ZOU（中国）、Christine DILAPI（米国）、Rajiva Ranjan PRASAD（インド）、Abayomi Olaiya BOLARINWA（ナイジェリア））
- 参加者 : 会合には、31ヶ国、9のセクターメンバー（認められた私企業や地域機関）、ITU BR等から合わせて95名（最終参加者リスト）が参加。主要国及び機関からの参加者数は、中国15名、ロシア連邦5名、ドイツ7名、アメリカ合衆国3名、ブラジル4名、イタリア6名、バチカン3名、イギリス1名、フランス2名、スイス2名、インドネシア2名、ベトナム2名、オーストラリア3名、韓国1名、UAE1名、EBU3名、NABA3名、ITU BR4名である。日本からは表1に示す4名が参加した。

表1 日本代表団 SG6 会合参加者

川上 慎史	総務省 情報流通行政局 放送技術課 国際係
西田 幸博	日本放送協会 放送技術研究所 テレビ方式研究部 主任研究員
横畑 和典	日本放送協会 技術局計画部 専任エンジニア
清水 勉	（社）日本民間放送連盟（株）TBS テレビ 技術局技術開発部 担当部長

## 2. 議事概要

今回は、今研究会期第6回の会合で、3つのWP会合の直後にSG6会合が開催された。今会合では、新勧告案0件、勧告改訂案7件（1件がPSAA、6件がNormalを適用<sup>1</sup>）の仮採択、勧告エディトリアル改訂案3件（3件とも改訂案からエディトリアル改訂案に変更）、新レポート案5件、レポート改訂案6件の承認<sup>2</sup>、研究課題改訂案3件の採択<sup>2</sup>が行われた。この他に、勧告2件の廃止提案が合意<sup>2</sup>された。

なお、WP6Cから提出された勧告改訂案1件、新レポート案1件は差し戻しとなった。

<sup>1</sup> 会合後に、新勧告案または勧告改訂案に対してSGでの採択と主管庁による承認を同時に実施する手続きをPSAA、別々に実施する手続きをNormalと呼んでいる。詳細は決議ITU-R 1-5の§10.2～10.4を参照のこと。

<sup>2</sup> 新研究課題案または研究課題改訂案は会合で採択が成立し、会合後に承認手続きのみを行う。勧告のエディトリアル改訂とレポートは会合で承認が成立する。勧告または研究課題の廃止提案は会合で廃止に関する合意が成立し、会合後に承認のために主管庁に諮問（consultation）が行われる。

今会合に提出された新勧告案および改訂案、新レポート案及び改訂案の処理状況を以下に列挙する。なお、SG6 傘下の WP6A、WP6B、WP6C の活動状況に関する概要報告および個々の文書に関する審議内容に関しては 3.5 を参照のこと。

#### [1] 仮採択された新勧告案、勧告改訂案

- Doc.6/338 勧告 BS.1660-3 改訂案「地上デジタル音声放送プランニング基準」(Normal)
- Doc.6/340 勧告 BS.1348-1 改訂案「短波放送の要求条件」(Normal)
- Doc.6/341 勧告 BS.774-2 改訂案「VHF/UHF 帯デジタル音声放送の要求条件」(Normal)
- Doc.6/344 勧告 BS.1114-6 改訂案「地上デジタル音声放送システム」(Normal)
- Doc.6/346 勧告 BS.1306 改訂案「地上デジタルテレビジョン放送の誤り訂正、データフレーム、変調及び電波発射方法」(Normal)
- Doc.6/352 勧告 BT.1368 改訂案「VHF/UHF 帯の地上デジタルテレビジョン放送の混信保護比を含むプランニング基準」(Normal)
- Doc.6/337 勧告 BT.1888 改訂案「ファイルベース型放送システムの基本要素」(PSAA)

#### [2] エディトリアル改訂案として承認された勧告改訂案

- Doc.6/339 勧告 BS.[CAP.RAD]改訂案「音声放送の字幕ラジオシステム」
- Doc.6/350 勧告 BT.1871 改訂案「ワイヤレスマイクの要求条件」
- Doc.6/363 勧告 BS.1770-2 改訂案「音声番組ラウドネスと真ピーク値の測定アルゴリズム」

#### [3] 承認された新レポート案、レポート改訂案

- Doc.6/342 新レポート案 BS.[ASP-FM]「VHF 帯音声放送への音声信号処理と圧縮技術の影響」
- Doc.6/343 新レポート案 BS.[PLAN\_PAR]「VHF 帯における地上デジタル音声放送のプランニングパラメータ」
- Doc.6/347 新レポート案 BT.[MEAS\_PROT]「TV 放送受信機の混信保護比と過入力閾値の測定」
- Doc.6/349 レポート BT.2140-2 改訂案「地上放送のアナログからデジタルへの移行」
- Doc.6/351 レポート BT.2069 改訂案「地上 ENG、TVOB 及び EFP の同調範囲と運用特性」
- Doc.6/336 レポート BT.2049-4 改訂案「移動受信向けマルチメディア・データ放送」
- Doc.6/359 レポート BS.2159 改訂案「家庭および放送応用におけるマルチチャンネル音響技術」
- Doc.6/360 新レポート案 BT.[Psychophysics]「人間の観視行動に基づくデジタルテレビジョンシステムの階層分け」
- Doc.6/364 新レポート案 BS.[1770Compliance]「勧告 BS.1770 で用いる検証テスト音源」
- Doc.6/366 レポート BT.2207 改訂案「障害者の放送サービスへのアクセスビリティ」
- Doc.6/368 レポート BS.2054 改訂案「オーディオレベルとラウドネス」

#### [4] 差し戻しになった文書

- Doc.6/354 勧告 BT.1210-3 改訂案「主観画質評価に使われるテスト画像」
- Doc.6/353 新レポート案 BT.[Test Material]「画質評価用テスト画像」

### 3. SG6 会合報告

#### 3.1 SG6 議長による開会の挨拶

SG6 議長 Christoph DOSCH（ドイツ）は、開会の挨拶として、以下のことを述べた。

故 Nabil KISRAWI（シリア）のご功績を偲び、深い哀悼の意を表す言葉から始められた。

続いて、日本での大地震、津波などの災害により、多くの犠牲者と多大な被害が出たことに対して、お悔やみの言葉を述べた。

その後、放送に関係する最近の動向や興味のあるテーマについて以下のように話した。KRIVOSHEEV 名誉議長から出されたアイデアとして、ステアリング会合で特に話題になったのが、世界中の放送サービスに対して共通に使用できる受信機実現のための標準化活動で、SG6 の新たな研究テーマになりうると考えている。今日の受信機ではチューニングもソフトウェアで行われており、世界中のどの周波数・どの方式に対しても対応可能な受信機の開発は十分に可能性がある。Worldwide broadcasting roaming という概念は SG6 として大切にすべきもので、合意が得られればこの実現に向けた寄書提出を促したいと思っている。

我々は、面白い時代でもあり困難な時代でもある今を生きている。

インターネットとのコンバージェンスが進み、TV 受信機には DSL コネクタが付いている。付加情報はインターネット経由で入力され、受信機で表示される。既にいくつかのシステムが出てきており、WP6B はこの部分の標準化を行おうとしている。また、二眼式 3DTV への大きな流れがあるが、眼鏡無し、視聴位置制限のない本当の 3DTV 実現に向けた研究も行われており、我々はその技術の進展を注視している。

将来に向けてはこのような課題・テーマがあるが、現時点での最大の問題は、他のサービスに加えて、PLT や UWB のような周波数割り当てを持たない機器やホワイトスペースを利用する機器から放出される電磁波から如何にして放送サービスを保護するかということである。保護勧告は成立したが、放送用に割り当てられている周波数、取り分け UHF 帯に対しては、他サービスでの周波数需要増加により、放送用として使用を続けることに対してプレッシャーがかかっている。このような環境下は、刺激的でもあり、脅威でもあるが、いずれにしても、この今を生き抜いていく必要がある。

#### 3.2 議事次第の承認、議事録作成のラポータ指名および前回会合議事録の承認

議事次第案 (Doc.6/ADM/22) は承認された。

議長から、基本的には、暫定進行表 (Doc.6/ADM/23 Rev.1) に記載された審議項目や文書番号の順序に従って審議を進めていくとの説明があった。

議事録作成のラポータとして、Juan Pablo CASSETTA（オーストラリア）が指名された。

2010 年 10 月開催の SG6 会合に関する結果概要レポート(Doc.6/318 Rev.1)は、修正無く、承認された。

#### 3.3 BR 局長による開会の挨拶

メキシコで開催された全権委員会議にて選出された新 BR 局長 Francois RANCY(仏)が以下のような挨拶を行った。なお、挨拶に先立って、SG6 議長から、オーストラリアから提供された油絵が贈呈された。

BR を代表して皆様に挨拶できることを光榮に思う。SG10、SG11 のときに放送サービスの審議に長期間参加していた。今回、BR 局長として初めて挨拶をしますとの前置きの後、以下の話があった。

中国方式、DRM+、UHDTV、3DTV などの新しい放送サービスの研究が精力的に行われ、今回、DTMB と DRM+を追加する勧告改訂案が提出されている。WRC-2012 の準備会合に向けて JTG5/6 は重要な仕事をしてくれた。

ITU-R の研究グループ体制の議論は現在行われていないと思うが、放送・通信サービスの技術の進展は速く、研究すべきテーマ・項目は必ずしも ITU-R の研究体制と整合する形になってくれるわけではない。しかし重要テーマに関しては、研究体制が理想的でないとしても、現体制を効率的に利用して精力的に研究に取り組んでいかなければならない。

SG 間の協調が必要とされる 2 つの研究領域は、PLT から放送波への妨害に関する問題と気候変動や機器のエネルギー消費量削減の問題である。PLT に関しては、放送サービスに対する影響度・問題点を示し、ITU-T と ITU-R が協調して問題解決する努力が行われている。気候変動やエネルギー削減に関しても ITU-T と協調して研究を進めてほしい。

固定サービス、移動サービス、放送サービスのコンバージェンスにより、どの番組でも、どの場所でも、いつでも見られるようになった。このようなサービスを議論するにも、ITU-R の現体制は適当でないと思っており、できるだけ速やかに議論して結論を出す必要があると考えている。そうしないと、我々と現実の距離がどんどん大きくなってしまう。

最後に、多くの研究すべきテーマがあるが、ITU の他のセクターや外部組織とも積極的に協調関係を構築するための努力をして、研究を進めていく必要性を述べて挨拶を結んだ。

SG6 議長から、BR 局長の挨拶を受けて、次のような発言があった。

ITU の他のセクターや外部組織との協調関係構築という観点から、一例として accessibility に関するフォーカスグループでの活動を紹介したい。IPTV、インターネット、放送分野の専門家が協調し、子供、高齢者、障害者を含めて誰でも簡単にサービスを利用できるように accessibility 向上のための共通ツールを開発しており、この木曜日にワークショップが開催される。気候変動の緩和に、ICT がどのように貢献できるかというのも 1 つの研究テーマである。PLT に関する ITU-T との協調関係を構築し、ITU-T 単独で勧告化を進めてしまう状況を回避できるようになった。PLT では CISPR と、accessibility では障害者団体と、3DTV では WHO という具合に、多くの外部組織と協力して、研究を進めていく必要がある。

### 3.4 審議開始前の諸説明

SG6 担当のカウンセラーである Nangapuram VENKATESH から、会合に関する参考情報については Document 6/INFO/11 (ブルー文書) を参照すること、不明な点については、直接カウンセラーに問い合わせしてほしいとの発言があった。

採択・承認の手続きとして下記の 2 種類あり、新勧告案もしくは改訂案の審議において、どちらの手続きを使用するか決める必要があると説明された。

Normal : 決議 ITU-R 1-5 §10.2 および §10.4 で規定される通常の採択承認手続きで、採択と承認を分けて行う。

PSAA : 決議 ITU-R 1-5 §10.3 で規定される同時採択承認手続きで、通信による協議と承認の同時実施を SG 会合で決定、その結果、全連合員 (国) からの反対がなければ勧告案を承認。

### 3.5 各 WP の会合報告、出力文書審議

#### 3.5.1 WP 6A 報告概要

WP6A 議長 Larry OLSON (米国) より、Doc.6/356 に沿って WP6A 会合の概要が報告された。今会合では、110 件を超える入力文書があり、43 件の出力文書が作成された。

入力文書は 4 つの SWG で審議された。地上送信に関する SWG1 は NAFEZ (イラン) に、地上送信の中の TV については KHOLOD (スイス)、勧告 BT.1368 改訂に関しては SAMI (EBU) に議長をお願いした。保護に関する SWG2 は SPELLS (英国) に、共用に関する SWG3 は BUNCH (オーストラリア) に、その他の事項を扱う SWG4 は MULLINIX (米国) に議長をお願いした。週末にも会合を持って、精力的、協力的、建設的に審議を進めた。その結果、今回は議長レポートを除いて、15 件の文書を SG6 に上程している。その内訳は、8 件の勧告改訂案、1 件の研究課題改訂案、3 件の新レポート案、2 件のレポート改訂案、1 件の用語の定義提案である。とりわけ中国の地上デジタル TV 放送方式 (DTMB)、地上デジタル音声放送方式である DRM+ の複数勧告への追加、中国やブラジルにおけるアナログからデジタルへの移行に関する情報のレポート BT.2140 への追加は重要と思われる。

地上デジタル TV 放送ハンドブックに関してはラポーターグループ議長の GOFAIZEN (ウクライナ) が欠席したので作業の進展はなかったが、WP6A 議長として、何人かの専門家に今会合後から 9 月会合までの期間に、ハンドブックの完成に向け、情報の追加や編集作業など GOFAIZEN への支援をお願いしたと述べた。

今後の活動に関しては、技術の発展に伴って、新たなサービスや無線機器が次々と現れており、放送の周波数帯も聖域として扱われない状況下で、放送サービスを守っていくための研究が必要であることは言うまでもないが、それは必ずしも新たなものをすべて排除しようという意味ではなく、対応可能な範囲内で許容し、共存していかざるを得ないという意識で研究を行うという意味である。そうしないと、放送サービスの帯域が、すべて排除されてしまいかねないと思っていると発言をした。

議長から、技術発展、ビジネス環境など新たな現実を直視し、その新たな現実のもとで、放送サービスを守っていくことが我々の研究目的であると考えているとの発言があった。

スイスから、「今回、3 つの WP 及び SG6 に入力された寄書が幾つかあったが、どの WP/SG が for action あるいは for information なのか不明であった。審議の結果、幾つかの寄書は WP6A の所掌範囲外であることが分かり、留意扱いとした。複数の WP や SG6 に提出された寄書に関しては、WP での効率的な審議を可能とするためにステアリング会合等で事前調整を行い、WP 会合が始まるまでに、責任を持って審議する WP/SG を明確にしてほしい。」との要望があった。

これに対して、議長は、ステアリング会合でこの問題に関して既に議論したこと、今後の会合においては、電話会合等を開催してステアリングメンバー間で事前調整を行い、遅くとも WP の第 1 回プレナリ会合が開催されるまでに、どの WP/SG が for action であるかを明確にすること、逆に複数グループに提出しようとする場合には、どの WP/SG が for action または for information であるかを、できるだけ寄書に記載することをお願いすると述べた。

### 3.5.1.1 新勧告案、勧告改訂案

- Doc.6/338 勧告 BS.1660-3 改訂案「地上デジタル音声放送プランニング基準」

→ 下記の修正の後、仮採択された。(Normal)

スイスは各表の単位に付いたスクエアブラケットを削除すること、ドイツは最後のページの § 8.2.2.3 Protection ratios for DVB-T in VHF band III の内容を勧告 BT.1368 に移動する予定であるので削除することを提案し、いずれも了承された。

議長は § 8.2.2.3 の技術内容を勧告 BT.1368 に挿入する際には、他の章との表現の統一等のために、エディトリアルなドラフティング作業が必要となる場合があると指摘したが、ドイツは、今回の SG6 会合期間中ではなく 9 月会合時の改訂で問題ないと回答した。

- Doc.6/339 勧告 BS.[CAP.RAD]改訂案「音声放送の字幕ラジオシステム」

→ 修正無く、下記の条件が整った段階で、エディトリアル改訂として処理することで合意された。(暫定的に承認)

6/339 は、SG6 会合時点で承認手続き中の新勧告案 BS.[CAP.RAD]に対するエディトリアル改訂案である。新勧告案 BS.[CAP.RAD]が承認され(6 月 1 日付けの CACE/542 で、承認されたこと及び勧告 BS.1894 の番号が割り当てられたことが通知されている)、かつ 6/338 (勧告 BS.1660-3 改訂案) 及び 6/344 (勧告 BS.1114-6 改訂案) の採択・承認手続きが完了した時点で、エディトリアル改訂として勧告 BS.1894 に反映することが確認された。

- Doc.6/340 勧告 BS.1348-1 改訂案「短波放送の要求条件」

→ 修正無く、仮採択された。(Normal)

- Doc.6/341 勧告 BS.774-2 改訂案「VHF/UHF 帯デジタル音声放送の要求条件」

→ 修正無く、仮採択された。(Normal)

- Doc.6/344 勧告 BS.1114-6 改訂案「地上デジタル音声放送システム」

→ P.20 の § 8 を § 7 に、P.22 の § 9 を § 8 に修正後、仮採択された。(Normal)

仮採択がなされた後に、今回の勧告 BS.1114-6 への DRM の追加に関連して、幾つかのコメントがあった。EBU は、今回の改訂は worldwide roaming できる携帯型デジタルラジオ受信機の実現を可能にするものであり、議長レポートにそのことを記載すべきと述べた。WP6A 議長は、今回の勧告 BS.774、1348、1114 の改訂案では ITU メンバーとメーカーに対して worldwide roaming できる携帯型デジタルラジオ受信機の研究を促す invites が追加されていることを補足した。ロシアは、worldwide roaming 機能の実現は携帯端末においては重要である。勧告 BT.709 は、HDTV 世界統一規格として世界的に採用されている。今も世界中で新しいシステムが設計されているが、ITU としては世界に適用される 1 つの世界統一規格を呼びかけるべきである。多くの勧告ができて、各システムが別々の設計によるものであれば、SG6 として worldwide roaming に向けて何もすることができない。統一規格に越したことはないが、それができない場合でもソフトウェア入れ替えによって対応方式を変更するための統一仕様インタフェースを受信機に装備することが worldwide roaming を実現する上で重要であると発言した。これを受けて、議長は、ロシアの意見に同感である。統一規格が望ましいが、それができない場合でも相互運用性を確保することが重要であり、相互運用性が確保されて



いれば携帯型の世界共通受信機は可能であり、これを実現していくことが SG6 の今後の目的の 1 つであると述べた。

- Doc.6/346 勧告 BS.1306 改訂案「地上デジタルテレビジョン放送の誤り訂正、データフレーム、変調及び電波発射方法」

→ 修正無く、仮採択された。(Normal)

主要な改訂点は、中国が開発した地上デジタル TV 放送方式の追加であるとの説明が WP6A 議長からなされた。

- Doc.6/350 勧告 BT.1871 改訂案「ワイヤレスマイクの要求条件」

→ P.7 の注(3)を下記テキストに差し替えた後、エディトリアル改訂として承認された。

While the tuning range in the current Radiocommunications (Low Interference Potential Devices) Class Licence is 520-820 MHz, it will be reviewed as a consequence of the Australian government's decision on a UHF digital dividend in the range 694-820 MHz.

- Doc.6/352 勧告 BT.1368 改訂案「VHF/UHF 帯の地上デジタルテレビジョン放送の混信保護比を含むプランニング基準」

→ 下記の修正の後、仮採択された。(Normal)

スイスが、最終ページの DVB-T に適用されている混信保護比測定用主観的劣化点 (SFP)方法に追加された「Where possible, protection ratios for digital TV systems are now provided for a range of signal levels up to receiver overload.」部分を、P.3 § General の追加部分「Where possible, protection ratios for digital TV systems are derived from measurements using a range of signal levels.」のテキストに変更すること、その後の[Further information on the measurement の部分の削除を提案し、合意された。

なお、スイスは P.23 の Appendix 2 to Annex 2 のデータは情報にすぎないのでタイトルに (informative)を追加したいと提案したが、WP6A 議長は、Appendix 2 では表ごとに判断して、文中で「この表はガイダンスであり、注意して使用するべきである」との記載を入れており、Appendix 2 全体に informative と記載することは WP6A での合意内容と異なると反対し、結局、タイトルへの(informative)の追加はしないことでした承された。

### 3.5.1.2 新研究課題案、研究課題改訂案

- Doc.6/345 研究課題 132-1/6 改訂案「地上デジタルテレビジョン放送のプランニング」

→ 修正無く、採択された。(Normal、主管庁による承認手続きが取られる。)

### 3.5.1.3 新レポート案、レポート改訂案

- Doc.6/342 新レポート案 BS.[ASP-FM]「VHF 帯音声放送への音声信号処理と圧縮技術の影響」

→ 修正無く、承認された。(電子版として発行され、Web 上に掲示される。)

- Doc.6/343 新レポート案 BS.[PLAN\_PAR]「VHF 帯における地上デジタル音声放送のプランニングパラメータ」

→ 以下の修正を行い、承認された。(電子版として発行され、Web 上に掲示される。)

- P.6 のタイトルの下にあるバージョンに関するテキストを削除する。

- 単位などに付けられているスクエアブラケットを削除する。[ETSI-DRM]等は、他の表記法と合わせて、[ETSI-規格番号]の形に変える。
- P.33 の § 6.4 の第一項にある legal base の意味が質問され、legal base を用いず、These values are determined in accordance with ITU-R BS.641. に変更する。
- P.43 の Authors の部分を削除する。

● **Doc.6/347 新レポート案 BT.[MEAS\_PROT] 「TV 放送受信機の混信保護比と過入力閾値の測定」**

→ 下記の修正の後、承認された。(電子版として発行され、Web 上に掲示される。)  
レポート番号が割り当てられるまでの Acronym として BT.[MEAS\_PROT]とすることで合意した。

● **Doc.6/349 レポート BT.2140-2 改訂案 「地上放送のアナログからデジタルへの移行」**

→ 修正無く、承認された。(電子版として発行され、Web 上に掲示される。)

● **Doc.6/351 レポート BT.2069 改訂案 「地上 ENG、TVOB 及び EFP の同調範囲と運用特性」**

→ 表 1 のオーストラリアに関する情報を、注を含めて全面的に差し替えることが紹介された後、承認された。(電子版として発行され、Web 上に掲示される。)

Country	Potential tuning ranges	Typical SAP/BAS application
Australia	174-230 MHz 520-820 MHz <sup>1</sup>	Analogue audio SAP/SAB
	174-230 MHz 520-820 MHz <sup>1</sup>	Professional/digital radio microphones
	1980-2110 MHz <sup>2</sup> 2170-2300 MHz <sup>2</sup> 2500-2690 MHz 7100-7425 MHz 8275-8400 MHz 12.75-13.25 GHz 21.2-23.6 GHz	Mobile vehicular and airborne video links, point-to-point video links, portable video links and cordless cameras may be used in some or all of these bands

1 While the tuning range in the current Radiocommunications (Low Interference Potential Devices) Class Licence is 520-820 MHz, it will be reviewed as a consequence of the Australian government's decision on a UHF digital dividend in the range 694-820 MHz.

2 The Australian Communications and Media Authority announced its intention to introduce television outside broadcasting (TOB) in these bands in October 2010.

### 3.5.1.4 その他

● **Doc.6/348 放送用語に RDS の定義を追加する提案**

→ 修正無く、承認された。CCV に関する SG6 ラポータを介して CCV に提出される。

最後に WP6A 議長が、今会合では新しい放送システムとして、地上デジタルテレビジョン放送の中国方式、地上デジタル音声放送の DRM+が仮採択されるという重要な進展があったとし、各 SWG 議長、DG 議長、事務局、すべての参加者に感謝の意を表明した。

### 3.5.2 WP 6B 報告概要

WP6B 議長 西田幸博より、Doc.6/355 の内容に従い WP6B 会合の概要報告がなされた。

WP6B の所掌範囲を 3 つの SWG に分けて審議を行い、1 つの勧告改訂案、1 つのレポート改訂案、1 つの CCV へのリエゾン文書案を上程したこと、WP6B が所掌している勧告・レポート等の見直し業務は、勧告草案になっている 2 件の他、勧告 1 件、オピニオン 1 件のみとなったこと、将来の研究テーマについて検討し、超高速インタフェース、ファイル形式と伝送、高能率圧縮符号化（映像・音声）、ハイブリッド放送などが研究テーマとして挙げられたこと等が報告された。

EBU から、ハイブリッド放送について、勧告化を目指し、研究を促進していくとの WP6B 議長の考えを支持する発言があった。WP6B 議長からは、フレームワークの構築、ハイブリッド放送の概念形成、研究課題の作成、ユーザ要求の確立などが第 1 ステップとして必要であると考えており、積極的な寄与を期待している旨の発言があった。

さらに、EBU は、2 年前に SG6 ブロック会合のスケジュールに合わせて 3DTV ワークショップを開催し、多くの参加者があって、3DTV の研究促進に効果的であったと思うが、ハイブリッド放送においても、同様な活動は寄書提出を促していく上で有効であろうと発言した。議長は、検討に値するととても良い提案であると述べた。

なお、議長レポートの § 4 Terminology（用語）の部分に、WP6B で行われた ENG と SNG の定義に関する審議結果が記載されていた。SG6 としてその内容を確認し、ENG の定義修正に関して SG6 から SG5 にリエゾン文書を送付することが了承された。リエゾン文書のテキストは SG6 議長及びセクレタリーに一任することも確認された。

#### 3.5.2.1 新勧告案、勧告改訂案

- Doc.6/337 勧告 BT.1888 改訂案「ファイルベース型放送システムの基本要素」

→ 修正無く、仮採択された（PSAA）。

エディトリアル改訂案として、SG6 会合で承認として処理できないかとの質問があった。WP6B 議長から、改訂内容は informative ではあるが、相当のページ数がある Appendix 2 を追加するもので、エディトリアルな範囲を超えていると思われることから、採択・承認手続きが必要と考えるとの発言があり、議長もその考え方を支持する発言をした。

#### 3.5.2.2 新報告案、報告改訂案

- Doc.6/336 レポート BT.2049-4 改訂案「移動受信向けマルチメディア・データ放送」

→ 修正無く、承認された。

#### 3.5.2.3 その他

- Doc.6/335 SG6 から CCV へのリエゾン文書案「“Integrated MSS system” と “Hybrid Satellite/Terrestrial system” の定義案」

→ リエゾン文書案の最終行を削除の後、承認された。CCV にリエゾン文書として送付され、CCV に関する SG6 ラポータがプレゼンテーションを行う。

### 3.5.3 WP 6C 報告概要

6/369 の内容に従って、WP6C 議長 David WOOD から WP6C 会合について以下のような報告がなされた。WP6C の主な所掌範囲はベースバンドと品質評価である。音質評価、画質評価、音声、映像、HDTV を超えるシステム、その他の 6 つの SWG を設立した。

今回、2 つの勧告改訂案、2 つの新レポート案、4 つのレポート改訂案、2 つの研究課題改訂案、2 つの勧告廃止提案、1 つの用語に関する文書を SG6 に提出しており、すべて採択・承認されることを期待していること、その中で、特に画質評価用 HDTV 標準動画画像とラウドネス測定に関するコンフォーマンステスト用音声ファイルに関するレポートは重要な役割を持っていると考えていること、UHDTV スタジオ規格に関する新勧告草案が作成されており、次会合で新勧告案へ向けた議論がなされる予定であること、3DTV に関しては、番組制作と番組配信という 2 つの面から研究が行われていること、前者は 2 人のラポータが充実した内容のラポータ報告を提出しており、勧告化を目指して研究が進行している状況であること、後者に関して、フレームコンパチブル方式は、配信での信号形式として 1 つの候補と考えられるが、例えば、Frame compatible planostereoscopic 3DTV services in DVB delivery systems は、世界中のメーカーが参加して規格化されたもので、これに関する新勧告提案文書をどの組織・主管庁が提出するのが適切かという潜在的な問題があること、新たに 3DTV における主観評価法に関するラポータを設立したこと、昨年秋の ITU-T とのジョイントワークショップ後も障害者のアクセサビリティに関する共同研究が継続しており、フォーカスグループでは、放送、IPTV、インターネットサービスにおいて共通に使用できるツールの開発が行われていること等を述べた。

バチカン、WP6C 会合において、3DTV に関係する 2 つの研究課題に関し、Q.125 の廃止と Q.128 の統合の提案がなされたが、所掌範囲に応じて各 WP が 3DTV に関する研究課題を 1 つずつ持つ形が良いのではないかと意見が出され、SG6 にアドバイス・ガイダンスをお願いし、その結果を踏まえて、ドラフティングすべきとの議論があったが、今回の WP6C 議長レポートにはそのことが記載されていない、と発言した。

イタリアは、研究課題は 1 つの WP に割り当てられることになっており、1 つの研究課題の中の研究項目を WP に分担させる形でなく、境界部分の曖昧性をなくすためにも、各 WP の所掌範囲に応じた 3DTV に関する研究課題を 1 つずつ作成し、WP に割り当てることが望ましいと主張した。

これらに対して、議長は、研究課題なしで研究できることになっており、研究上の実質的な問題が発生していると思っていないこと、研究課題の数をできるだけ少なくすべきとの要請に基づき、廃止や統合を行なって、今日の数まで絞り込んだにも拘わらず、また研究課題の数を膨張させる提案を行うにはそうすることを正当化させる必要があるだろう。このことを議論する必要があると考えているが、提案内容を寄書として提出してほしいと回答した。

バチカンは、決議 1-5 の § 3.6 の規定 (In order to avoid duplication of effort, in cases where a Question is relevant to more than one Working Party, a specific Working Party responsible for consolidating and coordinating the texts shall be identified.) を読み上げ、現在、研究課題は WP6C が担当しており、WP6A や WP6B で作成された新勧告案や新レポート案は WP6C の確認を得ないと SG6 に提出できないことになり、効率が低下することは明らかとし、速やかな WP ごとの研究課題作成が必要と発言した。この件については、これ以上審議されなかった。

### 3.5.3.1 新勧告案、勧告改訂案

- Doc.6/354 勧告 BT.1210-3 改訂案「主観画質評価に使われるテスト画像」

→ WP6C へ差し戻すことになった。

テスト素材に関する新レポート案（6/353）と一緒に審議され、2 つの文書とも WP6C へ差し戻すことになった。議論の内容は 6/353 を参照のこと。

- Doc.6/363 勧告 BS.1770-2 改訂案「音声番組ラウドネスと真ピーク値の測定アルゴリズム」

→ 下記の修正後、エディトリアル改訂案の範囲に収まると判断されて、承認された。

イタリアより、6/363 及び 6/364 において、compliance と conformance という同じ意味の用語が混在して使用されているとの指摘があり、compliance で統一することになった。今回の追加箇所である further recommends 1 を削除し、further recommends 1 の that を除いた部分を下記の Note として追加する。

Note : For testing compliance of meters according to this Recommendation, test material from the set described in Report ITU-R BT.[BS.1770Compliance] may be used.

以上の修正により、Note が 1 つ追加されるだけの形になるため、エディトリアル改訂案の範囲に収まると判断されて、SG6 会合にて承認となった。

### 3.5.3.2 勧告の廃止提案

- Doc.6/362 勧告 BT.1382 廃止提案「複数番組サービスにおける画質評価法」

→ 廃止に関して合意された。（承認のため、主管庁に廃止の賛否が諮問される。）

- Doc.6/367 勧告 BT.811 廃止提案「エンハンスド PAL、SECAM システムの主観評価法」

→ 廃止に関して合意された。（承認のため、主管庁に廃止の賛否が諮問される。）

### 3.5.3.3 新研究課題案、研究課題改訂案

- Doc.6/361 研究課題 44-3/6 改訂案「デジタルテレビジョン映像の客観評価パラメータ、測定法とモニター法」

→ 修正無く、採択された。（Normal、主管庁による承認手続きが取られる。）

- Doc.6/361 研究課題 102/6 改訂案「画質、音質の主観評価法」

→ 修正無く、採択された。（Normal、主管庁による承認手続きが取られる。）

### 3.5.3.4 新レポート案、レポート改訂案

- Doc.6/353 新レポート案 BT.[Test Material]「画質評価用テスト画像」

→ 6/354 と合わせて長時間にわたり議論され、WP6C へ差し戻しになった。

まず、イタリアが以下の 3 つのコメントを出した。

- P.11 の high definition stereoscopic television のテスト素材に関する § 3 について、他のテスト素材と同様に、素材に関する情報を表形式で掲載するか、§ 3 を削除すべきである。
- 日本の ITE（映像情報メディア学会）以外に評価用テスト画像を提供できない状況は読者に驚きを与え、ITU のイメージを下げるのではないか。

- 勧告 BT.1210 とこのレポートの関係を明確にすべきである。評価実験では、このレポートに記載のすべての素材を使用することを求めるのか、これらの中から選択した素材のみを使用するのか、これら以外の素材も含めて自由に選択可能という位置づけなのか、勧告の中で関係を明確にするテキストが必要である。

第2の質問に対しては、確かに欧米からの素材がないが、ITEの素材は非常に素晴らしいものであり、これをきっかけとして今後各方面から評価用テスト素材に関する情報が入力されるかもしれないこと、第3の質問に対しては、6/354（勧告 BT.1210-3 の改訂案）の recommends 1 に should be preferably used と記載されており、勧告とレポートの関係は既に明確になっていると考えられること、を主旨とする回答があった。

イタリアは、実質的な勧告内容がレポートに記載されていて、それをリファーする形の勧告案を初めて見た。通常は、勧告の付録（Annex）に記載されるものと考えているが、どうしてこの形式になっているのかと質問した。スイスは、レポートは改訂しやすいが、ITUの全連合員(国)による審議段階（郵便投票）がなく、十分に審議・確認されない素材がレポートに追加される可能性があり、その内容を自動的に勧告がリファーする構造になっているため、結果的に「勧告+レポートのセット」は十分審議されない信用度の不明確なものを推奨することになりうる問題ある構造であると述べた。

これに対し、レポートの一覧表は素材を選ぶ際のカatalog的なものでどれを選択するかは自由であり、評価用素材の情報更新はできるだけ頻繁かつ速やかに行えることが望ましいことから、レポートの方が適当であると考えたこと、6/354の recommends 1の should を may に変えるか、recommend 1 を削除すれば、評価画像の選択はオプションであることを強調でき、イタリアやスイスの危惧はなくなるとする旨の回答があった。

これに対し、イタリアは、スイスが指摘したように、勧告とレポートに分けている構造こそが本質的な問題であると発言した。英国は、ここでの議論でレポートにリストアップされた評価用テスト画像は自由に選択して良いことが明確になったので、勧告改訂案に、「評価用テスト素材は自由かつ任意に選択可能である」と明記することが重要と述べた。

イタリアは、研究機関がそのテスト目的に応じて適切と思われる素材をどれでも自由に使用してテストを実施できるが、ITUの役割は、その評価用テスト素材選択において調整役を果たすことであり、評価目的に応じて共通の素材が使用されることにより、各研究機関でのテスト結果を比較・分析できるようにすることである。しかしながらレポートにリストアップされた素材数では、同じ評価目的のテストで、たまたま同じ素材が使用されることは実質的に有り得ない。評価目的に応じて推奨する素材を厳選し、例えば素材数を10~20程度に大幅に絞りこむことを提案する。これにより、評価テストで共通画像が使用され、世界中で行われたテスト結果を比較しやすくなるが、この絞り込み作業には時間が必要なので、一旦 WP6C へ差し戻して、この考え方に沿った形で再検討すべきであると主張した。

スイスは、勧告 BT.1210 は研究課題 Q.81-1/6 をリファーしているが、Q.81-1/6 では the results of the above studies, as appropriate, should be included in (a) Recommendation(s)と記載されていることから、評価用素材のリストを Annex として勧告に含めるべきと主張した。勧告でも、改訂の必要性・重要度が認識され、SG6 会合での承認があれば6ヶ月ごとに改訂でき、レポートと勧告で更新手続き上の差はないと述べた。

（注：6/327によれば、Q.81-1/6は既に廃止されている）

米国は、勧告の場合、短期間で改訂を行う場合には必要性や理由が求められ、レポートの方が改訂しやすいのは確かである。勧告 BT.1210 の considering の f)、g)、h)に記載されたことを実現するには、どういう形が良いのか、より良いテキストを作成するために 9 月会合まで時間をかけて検討すべきというイタリアの意見は適当であると支持した。

WP6C での評価用テスト素材に関する RG 議長は、表中には画像ごとに試験されるべき属性が記載されていること、評価目的に応じていろいろな映像が必要で、選択のためにはかなりの数の素材が準備されている必要があることを述べて、新レポート案には目的に応じた評価用テスト素材を選択するための情報が十分に記載されていると説明した。

CBS は、recommends の各文を取り上げて、より適切な表現を検討するために WP6C へ差し戻すのが適当と発言した。

議長は、「レポートが承認されたら勧告 BT.1210 は本当に必要であろうか。レポートに記載された素材数については特段問題あると思っていない。符号化の研究では最もクリティカルな素材を見つけ、研究所間で CODEC について競っていた経験から、どういう素材が使用可能かの情報は重要である。新しい映像素材に関する情報にユーザが早くアクセスできるように、今回、新レポート案を承認し、速やかに Web に掲示すること、表現について指摘の多い勧告 BT.1210 の改訂案については、WP6C に差し戻し、9 月会合で再度検討してもらうこと、その際には廃止も有り得るし、より良いテキストに改訂することも有り得る。議長としてこのような扱いを提案する。」と発言した。

FreeTV Australia は、「約 20 の ITU 勧告はテスト素材に関して勧告 BT.1210 をリファアーしており、WP6C では、勧告 BT.1210 を維持することは重要かつ必要であると考えた。残念であるが、今回は、両方とも WP6C へ差し戻した方が良いと考える。素材に求められるファイル形式等の技術仕様を纏める作業を依頼されており、その作業を進める中で、合わせてこれも検討し、この状況を解決したい。」と発言した。

結局、6/353 は、6/354 と共に WP6C に差し戻しになった。

なお、WP6C へ差し戻す際に、SG6 としてのガイダンス的なテキストを付けるべきという意見が出され、議長は、勧告 BT.1210 は多くの勧告からリファアーされていることから、勧告 BT.1210 を維持して、これをブリッジとして、素材リストにつなげるということを考えて対応方法を検討してほしい旨のテキストになろうと回答した。

● **Doc.6/359 レポート BS.2159 改訂案「家庭および放送応用におけるマルチチャンネル音響技術」**

→ 以下の修正の後、承認された。(電子版として発行され、Web 上に掲示される。)

P.9 の図 23 はタイトルを含めてすべて削除する。

図 22 の下にある 3 行の内、(Fig.23)は(Fig.22)に変更し、(Fig.22)は削除する。

● **Doc.6/360 新レポート案 BT.[Psychophysics]「人間の観視行動に基づくデジタルテレビジョンシステムの階層分け」**

→ 修正無く、承認された。(電子版として発行され、Web 上に掲示される。)

● **Doc.6/364 新レポート案[1770Compliance]「勧告 BS.1770 で用いる検証テスト音源」**

→ 以下の修正の後、承認された。(電子版として発行され、Web 上に掲示される。)

Summary 中の This Report is referred to by Recommendation ITU-R BS.1770. を削除する。  
文書中の conformance という単語をすべて compliance に差し替える。

利用者がファイル内容を推測しやすくする目的で、ファイル名、備考での表示形式や  
テキスト表現を、SG6 会合後にエディトリアルに追加・修正することを了承した。

- **Doc.6/366 レポート BT.2207 改訂案「障害者の放送サービスへのアクセシビリティ」**  
→ 修正無く、承認された。(電子版として発行され、Web 上に掲示される。)
- **Doc.6/368 レポート BS.2054 改訂案「オーディオレベルとラウドネス」**  
→ 修正無く、承認された。(電子版として発行され、Web 上に掲示される。)

### 3.5.3.5 その他

- **Doc.6/365 CCV ラポータへの ITU 用語データベースへの放送用語、頭字語、定義の提案**  
→ 以下の修正の後、承認された。CCV にリエゾン文書として送付され、CCV に関する  
SG6 ラポータがプレゼンテーションを行う。

用語 Measurement of perceptual video quality with reduced reference に対する定義部分の内、  
with reduced bandwidth を with limited information on the reference に差し替える。

## 3.6 WP6A, 6B, 6C 以外から SG6 に提出された文書

### 3.6.1 SG6 に提出されたその他文書

- **Doc.6/319 SG6 が注意すべき SG1 の勧告 (提出元 : BR)**

勧告 SM.1879 の成立を周知する文書である。留意扱い。

- **Doc.6/320 SG4, 5, 6, 7 が注意すべき SG1 の勧告 (提出元 : BR)**

勧告 SM.1541-3 の承認手続き完了を周知する文書である。留意扱い。

- **Doc.6/321 SG6 が注意すべき SG1 の勧告 (提出元 : BR)**

勧告 SM.1268-2 の承認手続き完了を周知する文書である。留意扱い。

- **Doc.6/325 PP-10 決議 182 に対する SG6 から RA-12 への新 ITU-R 決議の提案(提出元:  
イタリア)**

環境保護の観点から関係が深いとして、TSB (電気通信標準化部門) 局長からの ICT、気  
候変動、環境に関する情報文書 (6/357) (3.6.3 参照) の直後に審議された。

議長は、重要な提案で基本的に同感であるが、提案をより強固なものにするために、SG6  
単独で RA に提案するのではなく、複数 SG からの提案とするために、SG4 と SG5 にこの  
寄書を送付し、審議を行ってもらい、各 SG から個別に寄書提出をするか、3 つの SG の  
共同提案文書として RA に提出するかについても検討をお願いしたいと考えている、と発  
言した。

日本は、決議 182 は ICT 技術を用いて気候変動の緩和・エネルギー消費削減にどのように  
貢献できるかという点を問い掛けており、イタリア提案は決議 182 に答える内容になって  
おらず不十分であること、主管庁への encourages に記載されている mandate the availability  
of power-saving measures について、強制的ではなく、ボランティアベースで行うべきと考  
えていると発言し、イタリア提案に異議を示した。



米国は、非常に重要な課題であり、イタリアの提案に感謝するが、日本の発言のように、内容的に不十分である。議長レポートに添付し、メンバーからの意見を集め、9月会合でRAに提出する最終テキストを完成させることを提案すると述べた。

議長は、SG6メンバーに対して、9月会合までSG6の議長レポートにこの寄書を添付し、意見を求めること、SG4とSG5の議長に対しては、RAに向けてSG6でこのような提案を提出する方向で議論をしており、共同提案の可能性を含めて、各SGで同様の議論を行ってほしいことを伝えるメールを送付すること、の2点を提案した。

スイスは、SG6議長名で同様のテキストをNOTEとしてSG4とSG5に通知した方が、フォーマルな方法であり、会合前の検討を促す効果がある。イタリアが、SG4とSG5に寄書を提出するのも、注意喚起と審議を促進する上で有効である、と発言した。

イタリアは、emailやNOTEよりも、イタリア寄書を添付したリエゾン文書をSG4とSG5に送付することを望むと発言した。

結論として、SG6メンバーに対してはSG6議長レポートにイタリア寄書を添付して寄書提出を促す内容のテキストを記載する。SG4とSG5には、「SG6議長名」でNOTEとして通知することが合意された。

日本は、イタリア寄書の添付だけでなく日本の発言内容も議長レポートに記載することを求めると発言をした。議長はここでの議論を記載する他、イタリア寄書は議論のスタートラインであり、9月のSG6会合で最終版を作成・合意してRAに提出する予定であることを記載すると述べた。次のSG6会合は1日のみなので、ステアリング会合やWP議長とemailベースで事前に調整する必要があると思っていること、SG6議長レポートに日本の発言内容を正確に反映するため、テキストを送付してほしいこと等を述べて、この議論は終了した。

#### ● Doc.6/326 フレーム互換二眼式 3D-HDTV の PDNR/DNR の提案（提出元：EBU）

フレーム互換二眼式 3D-HDTV に関する勧告化に向けた活動開始を呼びかける文書である。3つのWPへの提出されており、審議済みと判断して、SG6では留意扱い。

#### ● Doc.6/328 HDTV の次に来るものは？ テレビ放送の将来の発展を評価するためのラポータ指名の提案（提出元：イタリア）

テレビ放送の将来の発展を調査・評価するためのラポータを設立することを提案する文書である。現在、UHDTV、広色域化、3DTV、動き改善（高フレームレート）、ハイブリッド放送サービスなどさまざまな新方式が提案されており、これまでも提案されてはすぐに消えてしまう提案もかなりあり、放送事業者、メーカー、視聴者に混乱をもたらしている。限りあるリソースの有効利用の観点から、将来のTV放送サービスとして有望と思われる方式を調査し、優先順位を付けたり、絞り込みを行ったりした上で、開発や研究を行うべきとし、そのような調査を行うラポータの指名を提案するもので、特に、中小の放送事業者や開発セクターのメンバーには有益なツールとして機能するとのプレゼンテーションがイタリアからなされた。

議長から、3つのWPにも提出されており、そこからのフィードバックも受けているが、ステアリング会合で議論した際には、この件に関して明確なプランを立てるための支持がなかったため、SG6会合で議論を行い、この提案に対する結論を導き出してもらいたい旨の発言があった。

日本は、このような将来のための調査活動や予測が、放送事業者や主管庁にとって役立つ面もあるとしながらも、提案文書の内容はITU-Rが研究すべき技術領域をかけ離れている。提案された調査活動や予測が、ITU-Rとして行う技術仕様の勧告化活動とどのように

関連してくるのか分からない。ITU における標準化活動の主要目的はシステム間、事業者間の相互運用性を確保することであり、このような観点から、提案されたラポータは不要であると考え。将来の放送サービスに関するビジョンや提案があれば、寄書として提出することをお願いしたいという主旨の発言を行い、ラポータ設立に反対した。

米国は、世界中の事業者が将来の（特に TV）放送サービスに対して危惧を持っていることから、将来に向けたサービス概念を確立することは重要である。放送業界にも政府にも多くの関係者・知識人がおり、これらのなかで十分に時間をかけて将来ビジョンについて意見交換をする必要がある。9 月会合では、そこでの議論を要約する形で、放送サービスの将来に対するビジョンを報告できるかもしれないという主旨の発言をした。

イタリアは、RA から、新しい技術の勧告化を求められており、技術的アスペクトだけでなく政治的もしくは経済的なアスペクトも含めて将来の放送サービスに関するガイダンスを提供することが求められている。技術勧告のみに制限することは活動範囲を限定しすぎる。もっと広い視点から SG6 の活動を行うべきと考えるという主旨の発言をした。

日本は、ITU-R SG6 は TV 放送の end-to-end を所掌しているグループで放送業界をリードする立場にあり、技術的アスペクトからその役割を果たすことが期待されている。SG6 は新しい技術を用いた将来の放送システムを規定すべきと考える。サービスの選択は、事業者もしくは主管庁に委ねられており、ITU-R は相互運用性の優れたシステムの技術基準・仕様を放送事業者、主管庁に提供することに専念すべきと考えると発言した。

議長は、勧告が技術的アスペクトのみか、社会的アスペクトを含むかという概念的議論に入りたくない。勧告が政治的・経済的側面を持つべきか否かは SG6 で議論するテーマではなく、RAG や RA で議論すべきと思うと述べた。その上で、「技術的観点から将来の放送はどのように発展しているか」というビジョンを求める旨のテキストを議長レポートに記載し、寄書提出を促すので、改めて 9 月会合で議論をすることができるだろうと発言し、この議論を終了させた。

#### ● Doc.6/329 研究課題 15-2/6「大画面デジタル映像」の改訂提案（提出元：イタリア）

イタリアのプレゼンテーションの後、WP6B 議長から、WP6B では、研究課題 15-2/6 の廃止や更新、あるいは VIS の新研究課題案作成等の意見が出され、合意に至らなかったため、次回以降寄書に基づき、検討を行う旨の説明があった。

議長から、WP6B で審議中であることから、SG6 としては no action としたいとの発言があった。

イタリアは、P.2 の脚注の 1 を現在の WP6A, WP6B, WP6C にエディトリアルに更新すべきと発言し、議長は、WP6B での審議段階で修正を行うべきと回答した

イタリアから、WP6B の検討結果を待つことになるのか、WP6A や WP6C からの結果報告も待つ必要があるのか、意見表明がない場合には支持していると理解して良いのかなど、9 月会合に向けた対処方法を聞きたい旨の質問があり、議長は、WP6B が担当 WP であるので WP6B での審議に委ねたいと回答した。WP6B 議長は、VIS アプリケーションを研究課題 15-2/6 に含めることは WP6B で対応可能であるかもしれないが、WP6A と WP6C の所掌範囲に属する研究項目が多く、改訂するとなると WP6B だけで処理できないという問題があると回答した。

議長は、研究項目のうち地上放送技術に関する部分は WP6A の所掌範囲かもしれないが、それ以外はすべてアプリケーションとしての研究であり、WP6B で対応可能であると考え。TG6/9 が解散したことを考慮して研究課題 15-2/6 を廃止するか、エディトリアル更新するか、VIS あるいは UHDTV アプリケーションとしての新研究課題を作成するか等

の観点から WP6B としてのガイダンスを出して、提出寄書に基づき対応することは可能であると考えていると発言し、この方向で対応することが了承された。

イタリアは、議長の方針に同意するとしながらも、研究課題 15-2/6 を廃止する場合には、研究課題なしで寄書提出することを避けるために、WP6B はすべての研究項目が既に完了しているかを確認する必要があると発言した。議長は、現段階で完了していない研究項目があったとしても、例えば新たに規定する UHDTV アプリケーションの研究課題に含めるといった対応も可能と発言した。イタリアは、3 つの WP によって結論を導き出すことが実質的にかなり難しく SG6 でのガイダンスに期待していたが、ここでの議論で研究課題 15-2/6 に関する 9 月会合に向けた対応方針が明確になったとして謝意を示した。しかし、議長は、3 つの WP 議長を含めてステアリングメンバー間で研究課題も含めて意見交換をしており、組織運営上の問題はないと思っていると反応した。さらに、研究課題の扱いに関して、各研究項目について対応済みであるかを確認し、一部未達成な項目がある場合、その研究課題をそのままに残すよりも残った研究項目を含めた、より現代的な新しい研究課題を作る方が望ましいと考えており、これは WP6B での検討におけるガイダンスとなると述べた。

CBS は、前 TG6/9 議長として、フィルムによる映画上映ではできなかったコンサートやスポーツなどのコンテンツが生中継や記録媒体による録画再生によって、プロジェクタを用いて大スクリーンに上映され、事業として成功を収めており、LSDI に関する研究は ITU-R の輝かしい成功例の 1 つであるので、研究課題 15-2/6 を廃止することなく、今後も維持してほしいとの発言をした。

議長は WP6B の専門家の判断に委ねると発言し、この議論は終了した。

● **Doc.6/330 LSDI 応用と VIS 応用のサブセットの重複に基づく新勧告の提案（提出元：イタリア）**

イタリアより、WP レベルで審議されており、SG6 での審議は求めないと発言しながらも、WP6A や WP6C での審議結果について知りたいとの発言があった。

WP6B 議長から、新勧告草案として文書化したが、under controllable viewing conditions という表現が問題になって合意に達しなかったこと、リストアップされた勧告の内、WP6B が担当している勧告は 2 つであり、殆どは他の WP が担当している旨の説明があった。

WP6A では、WP6B からのリエゾン文書を留意扱いとしたことが報告された。WP6C では議長レポートに審議結果を記載することで合意され、出力文書はない旨の報告があった。議長は、WP6B で審議中であり、WP6A では WP6B で作成された PDNR を留意扱いしたこと、WP6C では議長レポートに結果が記載されるという現状を確認して、この議論は終了した。

● **Doc.6/333 3DTV に関する SG6 での研究に関する EBU 寄書の検討（提出元：CBS）**

CBS は、WP レベルで議論されたので SG6 では特段議論する必要はないこと、フレームコンパチブル方式の勧告化は時期尚早との判断がなされたこと、3D-HDTV という用語は誤解を招き、適当でないという点では共通の認識となったことなどを述べた。留意扱い。

### 3.6.2 PLT 関連文書

● **Doc.6/334 SG6 第 5 回会合以降の PLT の進展に関するレポート**

前回 SG6 会合で設立された PLT に関するラポータグループが作成したレポートをラポータグループ議長 John SHAW（英国）が報告した。内容は、PLT に関する ITU-R の他の SG、ITU-T、CISPR 及び他の関係標準化機関による進捗状況を要約したものである。最近の ITU-T 勧告 G.9960 関連の情報や、スマートグリッド、ITU-T、ITU-R の活動状況、

30MHz 以下と 30MHz 以上の PLT からの不要放射の発生メカニズム、CISPR22 制限値等が報告されている。

イタリアは WP1A とのリエゾンには CISPR との関係もあり特に重要であると発言し、WP6A 議長は、WP6A 会合において WP1A へのリエゾン文書を作成して送付したこと、さらに、ラポータグループが PLT に関するレポート作成のための情報交換を行うためにリエゾン文書を ITU-T の SG など関連する組織にも送っていることを紹介した。ラポータグループ議長は、CISPR や IEEE など様々な組織と協調して情報交換を進めていきたいと発言し、ITU-R と ITU-T はお互いに問題を共有して電波放射についても情報交換していることを紹介した。

一方で、ラポータグループ議長は、CISPR は長い間 PLT を検討してきたが、PLT 装置からの保護について全て確認できているわけではなく、CENELEC（欧州電気標準化委員会）は EU や ETSI と協力して PLT の問題に取り組んでいるので、ラポータグループとしても、CENELEC との情報交換を進めていきたいと考えているが、ITU と CENELEC とは協調関係を確立するためのメカニズムがまだできていないと述べた。

議長は、BR 局長に IEC 等と結んでいる覚書（Memorandum）的なものを CENELEC と結ぶなど、協調関係を確立する方法について検討してみると発言した。イタリアは ETSI と CENELEC はそのような関係を確立しており、協調関係の確立方法に関して ETSI に問い合わせることも一案であると発言した。

### 3.6.3 ITU-T とのリエゾン

#### ● Doc.6/357 ICT、気候変動と環境に関する TSB 局長からの情報文書（提出元：TSB 局長）

TSB の Cristina BUETI が、6/357 に基づき、ICT、気候変動、環境に関する ITU-T の活動状況についてプレゼンテーションをした。議長は、情報提供に感謝の言葉を述べると共に、SG6 として ICT と気候変動に関するジョイントコーディネーションアクティビティ（JCA-ICT&CC）の重要性を強く認識しており、WP6C 議長の David WOOD（EBU）は前回の JCA-ICT&CC 会合に参加していることを紹介した。

参加した経験を踏まえて、WOOD は、JCA-ICT&CC には ITU-T と ISO/IEC が協調して取り組んでおり、ITU-R として、この活動に参加することは重要である。ICT 技術が気候変動や CO<sub>2</sub> 削減にどのように貢献できるか、特定の目的実現のためにどの手法が最もエネルギー消費が少ないかなど、環境への影響度に関する評価手法について検討が行われており、ITU-R からも、これに関する寄書提出ができれば良いと思っている。さらに、ITU-R として低消費電力型の放送システムをどうすれば実現できるかという観点から議論すべきかどうかも相談したいと思っている。非常に多くの組織、世界の有力企業が参加しており、放送という立場からこの活動に積極的に関わっていく必要があると思う、と発言した。

その後、議長から、ICT、気候変動、環境に関連する活動に関するラポータを SG6 に設立し、WOOD をラポータに指名することが提案された。Draft Decision には、所掌事項として、ICT と気候変動に関する活動について ITU-T JCA-ICT&CC と ITU-R SG6 とのリエゾンを図ること、ITU-R の他の SG 及び必要と思われる ITU-T SG における ICT と気候変動に関する議論に SG6 を代表して参加すること、この活動に関して SG6 と WP にレポートを提出することが記載されている。提案どおりに、このラポータの Draft Decision は承認された。この Decision は SG6 議長レポートに添付される。

### 3.6.4 CCV とのリエゾン

- Doc.6/322 6/245 および 6B/247 で提案されている「統合 MSS システム」と「ハイブリッド衛星/地上システム」の定義について（CCV に関する SG6 レポート）

WP6B で既に審議され、6/335 として上程され、CCV へリエゾン文書として送付することが合意されている。留意扱い。

- Doc.6/323 ENG と SNG の定義について（提出元：CCV に関する SG6 レポート）

WP6B 議長レポート（6/355）の §4 Terminology（用語）に記載された ENG と SNG の定義が SG6 から SG5 へのリエゾン文書として送付することが合意されている。留意扱い。

- Doc.6/324 多くの放送に関する用語、略語、定義の ITU 専門用語データベースへの追加提案（提出元：CCV に関する SG6 レポート）

WP6A（6/348）と WP6C（6/365）からの提出文書で対応済みである。留意扱い。

- Doc.6/331 HDTV の定義に対し、明確化のためのノートを追加する提案（提出元：イタリア）

議長から、イタリアに対し、留意扱いで良いかとの質問があり、各 WP での審議結果を知らないのでは報告してほしい旨の回答があった。WP6C 議長からは、本件に関しては合意に達せず、議論が継続している段階との回答があった。WP6B 議長からは、NOTE について一部修正を行うドラフティングも行ったが、結論として、NOTE を追加することそれ自体が合意に至らなかったとの回答があった。WP6A からは、留意扱いで、no action であったことが報告された。

RAI Way から、ディスプレイ画素数が 1920×1080 よりもずっと少ない HDTV（と称する）受像機や、大幅なダウンサンプリング、強い圧縮をかけた HDTV（と称する）番組配信サービスなど、本来の HDTV 画質に比べて大幅に低下した画質の映像を表示する機器やサービスが存在しており、本来の HDTV 画質を家庭で再現できるようにするための注意喚起的意味合いの NOTE を HDTV の定義に追加する提案を、CCV へ送付してほしいとの趣旨で寄書を提出したとの説明があった。

議長は HDTV 受像機の初期段階では様々なサンプル数×ライン数のディスプレイがあったが、現在は 1920×1080 のいわゆるフル HDTV が一般的になっている。それにも拘わらず、スケーリング処理によりオーバースキャン表示を行っている受像機が多い。最高の HDTV 画質で表示するにはどのようにすべきか、というテーマのレポートを外部組織へのガイダンス的な位置付けとして作成することを推奨する旨の発言をした。

EBU は、HDTV 番組をインターネットで 2Mbps のビットレートで配信するサービスがあり、HDTV に対する誤解を生む可能性はあるが、ITU では制御不可能な領域と思っていると発言した。これに対し、議長は、ITU 外部でも HDTV とは何かを正しく理解してもらえるように働きかける必要があると個人的には思っている。このような問題に対する注意喚起を行う意味でもレポートの発行は有効であると考えており、それらは勧告化や HDTV の定義更新にも繋がると発言した。

イタリアは、9 月会合で WP6B や WP6C の議論が継続するためにも、SG6 議長レポートにイタリア寄書を添付し、NOTE に対する意見提出を促すテキストを付けて、関係者からの意見をまとめてから結論を出してほしい旨の発言をした。議長は、ここでの議論を記載するが、添付に関してはリンクを記載する形にすると回答した。

米国は、WP6B での議論では、現在の HDTV の定義はよく理解されており、十分なテキストであり、NOTE の追加は必要ないとの結論に至ったこと、NOTE として追加しようとする内容は、定義ではなく問題点の指摘や注意喚起を目的とするもので、このような

NOTE を追加するとすれば、次々と NOTE を追加することになってしまう。定義に NOTE を追加するための議論を継続する必要はないと発言した。

CBS は、NOTE を追加しなくても良いような「HDTV とは何か」を、分かりやすく明確に表現する定義を検討すべきではないかと発言した。

イタリアは、米国の発言に対して、CCV において NOTE 追加の議論してもらうために、イタリアとして CCV に提案するつもりであり、SG6 で議論するために提案しているのではない、我々が提案しているのは定義の変更ではなく NOTE の追加であり、NOTE 追加の是非を決めるのは CCV であると（理解しがたい）発言した。

SG6 議長はここでの議論を議長レポートに記載して、寄書提出を促すこと、個人的には、HDTV とはどのようなものかというテーマのレポートを発行するのが有効と思っていることを述べて、この議論は終了した。

### 3.7 テキストの状況

#### ● Doc.6/327 テキストの状況（提出元：BR）

CBS は、WP6C で発言した内容と前置きし、勧告・レポートの廃止提案の寄書が入力されているけれども、頻繁に見直しを行うことを避けるために、いつ最後の見直しをしたかが分かるメカニズム（方法）を作る必要があり、例えば、Status of text の表に、最終見直し時期を記載する欄を追加してもらえると大変助かると具体的な方法を提案した。

議長から、この件に関して WP 議長を中心に既に議論を始めており、次のような提案をもらっている。5 年-10 年を単位として自動的に見直しを行うというルールを導入し、有効と判断された場合、その勧告のカバーページに Re-validated の表示をし、その年を表示するというもので、長期にわたり改訂が無い勧告でも技術内容の有効性が確認されたことが分かるので、自動的に廃止案にすることも短期間に見直しを繰り返すことも避けることができる。廃止もしくは改訂が必要と判断されればそのような処理を行うという内容で、大変有効な方法と理解している旨の発言があった。

### 3.8 今後の開催スケジュール

ADM/21 に沿って議論された。2011 年秋会合に関しては下記の日程で確定である。

会合名	所掌内容	期間	(実日数)
WP6C	(Programme production and quality assessment)	2011 年 9 月 26 日～9 月 30 日	(5 日間)
WP6A	(Terrestrial broadcasting delivery)	2011 年 9 月 27 日～10 月 5 日	(7 日間)
WP6B	(Broadcast service assembly and access)	2011 年 10 月 3 日～10 月 6 日	(4 日間)
SG6	(Broadcasting service)	2011 年 10 月 7 日	(1 日間)

なお、2012 年の SG6 ブロック会合は、暫定的に春会合が 2012 年 4 月 19 日(木)～5 月 1 日(火)、秋会合が 2012 年 10 月 18 日(木)～11 月 2 日(金)の日程で組まれている。

#### 補 足：

- (1) 2011 年秋会合： 予算削減のため、SG6 会合を 1 日、WP6B を 4 日にして、すべてを 2 週間に収めるスケジュールになっている。10 月下旬での開催を模索したが、テレコムが 11 月にあるため、ジュネーブでの開催という条件では、実質的に一番遅いスケジュールを選択している。
- (2) 2012 年春会合： 会議室の空室状況によっては、5 月へシフトする可能性がある。2011 年秋会合時に決定する。
- (3) 2012 年秋会合： SG6 と SG5 のブロック会合が連続するスケジュールになっており、両 SG に参加する者にとってはスイスへの渡航を 1 回にできるメリットがある。

### 3.9 閉会の挨拶

EBU は、WP6C 議長の立場から SG6 議長のリーダーシップとガイダンスに感謝する言葉を述べた。

ロシアは、WP6A が中国方式である DTMB を採択したことに祝福の言葉をおくる。WP6B では、ハイブリッド放送システム、マルチメディア放送サービスへの取り組みに注目している。勧告 BT.1833 には 8 つのシステムが規定されているが、携帯端末がローミング機能を装備できれば大きな進展になる。WP6C では、心理物理学に基づく TV アプリケーションの階層化という新しいトピックのレポートが生まれたことを祝福する。今、9 月会合に向けてスタートラインにいる。RA に向けて準備をしなければならない。SG6 は放送界におけるリーダーシップを取っていかなければならない存在であり、放送は、発展する情報社会において最も大きな役割を果たしていくことが期待されている存在であるということを変更して申し上げたい、と述べた。

中国は、ロシア代表団の中国地上 TV デジタル方式への評価に対して感謝を申し上げる。さらに中国方式を支持してくれた WP6A 議長に感謝を申し上げる。中国代表団は ITU-R の活動をずっと支持してきたが、今後も議長のリーダーシップのもとで、無線通信技術の標準化に貢献していくと述べた。

議長は、いま変化の時代の入口にいると思うが、これからの大きな変化に対応していかなければならない。放送は、情報社会において非常に大きな役割を担っており、新しい社会環境においても重要な役割を確実に果たし続けていく必要がある。それを実現していくために皆様に寄書提出をお願いしたい。また 9 月に会いましょう、と述べて閉会した。

## 4. あとがき

ワーキングパーティ(WP)での審議も含めて、今回の SG6 ブロック会合で特に印象に残ったことをいくつか記載させていただく。

昨年、メキシコで開催された全権委員会議会で選出された新 BR 局長 Francois RANCY(仏)の挨拶には、かなり端的で重要な指摘があったように思う。すなわち「放送・通信サービスの技術の進展は速く、研究すべきテーマ・項目は必ずしも ITU-R の研究体制と整合する形になってくれるわけではない。固定業務、移動業務、放送業務のコンバージェンスによって境界がなくなりつつある。テレビ放送の視聴形態も変化して、どの番組でも、どこでも、いつでも、テレビを視聴できるようになっている。このようなサービスを議論するには ITU-R の現体制は必ずしも適当でないと思っており、できるだけ速やかに議論して結論を出す必要があると考えている。そうしないと、我々と現実の距離がどんどん大きくなってしまふ。」という部分である。

我々は、SG6 は番組制作から家庭での再生まで、つまり放送サービスの end-to-end を所掌しているグループで放送業界をリードする立場にあり、その役割を果たすためにも、放送サービスを所掌する単独の SG であり続けるべきと考えているが、新 BR 局長の構想ではどのような審議体制が最適であるのだろうか。仮に地上系業務を所掌する SG の中の 1 つの WP が放送サービスを所掌するといった体制になってしまふと、放送サービスを守っていく上でいろいろと支障が出てくるだろうと思うのは杞憂であろうか。

テレビ、ラジオ、マルチメディア応用などデジタル放送方式になってから、次々と新たな方式が提案され、1 つの勧告には複数の方式がカタログのように並べられる傾向があるが今回 SG6 議長から Worldwide broadcasting roaming というこの概念が提唱された。元々は、KRIVOSHEEV 名誉議長から出されたアイデアということであるが、今日の受信機では

チューニングもソフトウェアで行われており、世界中のどの周波数・どの方式に対しても対応可能な受信機の開発は十分に可能とのことである。もちろん統一規格が望ましいが、それができない場合でも相互運用性が確保されていれば世界共通の携帯受信機は可能で、これを実現していくことを SG6 の今後の活動目的の 1 つにしたい、とのことであった。AM、FM、短波放送などアナログラジオ受信機は世界共通で使用できたわけで、デジタル放送になっても、携帯端末が世界の複数方式に対応できれば、とても便利になる。

次に、コスト削減のために SG6 会合の日数を減らす件であるが、今会合では特段の議論はなく、ブロック会合最終日の 1 日だけの開催にすることで次回以降のスケジュール案が示された。ステアリング会合での議論で、1 年に 1 回 2 日間の開催よりは、半年ごとに 1 日開催した方が良いという点では異論がなかったのだろう。ただ、1 日開催にすることで、新たなプレッシャーが議長にかかってくるだろう。2 日間の場合は、時間のかかりそうな問題が発生した際に、1 日目の終了後に関係者を集めてドラフティングを行うような対応も可能であったが 1 日開催ではそのようなことはできない。議長が、秋会合からは、議論が必要と思われるような項目については、ステアリング会合やオフライン会合で、事前調整をしっかりとっておく必要があると思っている、と述べたことから、プレッシャーを想像した次第である。プレッシャーというのは言い過ぎかもしれないが……

今回は特に、「効率」とは何だろうか、ということを考える機会が多かったように思う。SG 会合だけでなく WP 会合も含めて、効率的な審議を行うための方法論的な議論が、かなりの時間を使って行われた。例えば、数年前に SG6 は非常に多くの研究課題を持っており、効率的な研究・審議を行うためには大幅に研究課題の数を少なくすべきであり、そのために複数の研究課題の項目を包含するアンブレラ的な研究課題を作成すべきであるとの方針のもとに多くの時間をかけて研究課題の整理・統合が行われた。逆に今会合では、1 つの研究課題に含まれる研究項目は複数の WP の所掌範囲に属しているにも拘わらず、その研究課題が 1 つの WP に割り当てられており、他の WP では研究を「効率的」に進める上で支障があるとの意見が出され、WP の所掌範囲ごとに分割した研究課題を作成すべきか否かが議論された。また 3DTV の番組制作に関して、現在のラポータの形で研究を進めるのが「効率的」か、そのラポータを議長にしたラポータグループの形で進めるのが「効率的」か、で議論が続けられた。さらに、寄書提出国の言によれば、無駄な審議を排除する目的で、予め設定した条件を満足した場合に限り、新たな勧告化を目指す研究提案を行えるようにルール設定を行うべきとの寄書もあった。これも、かなりの時間議論された。実質的に一カ国からの寄書によって、「効率向上」のために、このような議論に多くの時間を割くのは本末転倒のように思うが、有効な防御策はないものだろうか。

アウトプットされた放送サービスに影響力を持つ勧告を分子、それに費やした時間が分母として、「効率」を計算するとして、分子を大きくすることが重要なはずである。WP6C において SONY の出席者が発言したように、「放送を取り巻く環境、使用できる技術は、ここ数年で大きく変化しており、新規提案に制約を与えるべきでない。提案、寄書が増える環境が ITU には必要である。」との意見に同感である。

次回の秋会合は、現在の研究会期の最終会合である。SG6 から Radiocommunication Assembly に提出する文書の審議も行われるだろう。それには、ICT 技術を用いて気候変動の緩和・エネルギー消費削減にどのように貢献できるかというテーマも含まれるだろうし、放送の将来ビジョンを掲げた次期研究会期での SG6、WP の活動プランも含まれるだろう。

もし、秋会合でも、「効率」に関する議論が継続するのであれば、どのようにして提案や寄書を増やし、多くの参加者を得てアウトプットを増やしていくか、すなわち、分子を大きくすることによる「効率アップ」の議論になることを期待したい。SG6 には、放送を取り巻く環境が変わっても、その新たな環境に対応した放送サービスを開発し、放送業界をリードしていく役割を次期研究会期でも果たしていくことが求められているのである。(文責:清水 勉(TBS テレビ))



表 2 入力文書一覧

入力文書番号 (6/)	提出元	題 名	措置
318(Rev.1)	Chairman, SG6	Summary record of the meeting of Radiocommunication Study Group 6 (Geneva, 28-29 October 2010)	Noted
319	BR Study Group Department	ITU-R Study Group 1 Recommendation ITU-R SM.1879 to be brought to the attention of Study Group 6	Noted
320	BR Study Group Department	ITU-R Study Group 1 Recommendation SM.1541-3 to be brought to the attention of Study Groups 4, 5, 6 and 7	Noted
321	BR Study Group Department	ITU-R Study Group 1 Recommendation ITU-R SM.1268-2 to be brought to the attention of Study Group 6	Noted
322	SG6 Rapp. to the CCV	Definitions proposed in Documents 6/245 and 6B/247 for "Integrated MSS system" and "Hybrid satellite/terrestrial system"	Noted
323	SG6 Rapp. to the CCV	Definition of ENG and SNG	Noted
324	SG6 Rapp. to the CCV	Proposal to add a number of broadcasting terms, acronyms or definitions to the ITU terminology database	Noted
325	Italy	Proposal for a draft new ITU-R Resolution that Study Group 6 could offer to the RA-12 in response to PP-10 Resolution 182	Presented, discussed and attached to the minutes, as well as sent to SGs 4 & 5
326	European Broadcasting Union (EBU)	Proposal for a PDNR/DNR for frame compatible Plano-Stereoscopic 3D-HDTV	Noted
327	BR Study Group Department	Status of Texts	Noted
328	Italy	Beyond HDTV - What's next? - Proposal to appoint a Rapporteur to appraise how television broadcasting might evolve in the future	Discussed but failed to reach a consensus
329	Italy	Proposed revision of Question ITU-R 15-2/6 "Large screen digital imagery (LSDI)"	Confirmed this is under discussion mainly at WP6B
330	Italy	Proposed draft new Recommendation based on the overlap of LSDI applications with a subset of VIS applications	Confirmed this is under discussion mainly at WP6B
331	Italy	Proposal to ADD a clarification note to the current definition of high definition television	Discussed but failed to reach a consensus
332	BR Study Group Department	( withdrawn )	-----
333	CBS, Inc.	Considerations on EBU contributions relevant to Study Group 6 studies on 3DTV	Noted
334	Rapporteur PLT	Report on developments on PLT since the fifth meeting of Study Group 6 (Question ITU-R 221/1)	Presented and discussed
335	WP6B	Draft liaison statement from Study Group 6 to the CCV - Proposed definitions for "Integrated MSS System" and "Hybrid Satellite/Terrestrial System"	Sent to CCV
336	WP6B	Draft revision of Report ITU-R BT.2049-4 - Broadcasting on multimedia and data applications for mobile reception	Approved
337	WP6B	Draft revision of Recommendation ITU-R BT.1888 - Basic elements of file-based broadcasting systems	Provisionally adopted (PSAA)
338	WP6A	Draft revision of Recommendation ITU-R BS.1660-3 - Technical basis for planning of terrestrial digital sound broadcasting to the VHF band	Provisionally adopted (Normal)
339	WP6A	Draft revision of Recommendation ITU-R BS.[CAP.RAD]	Approved as an editorial revision
340	WP6A	Draft revision to Recommendation ITU-R BS.1348-1 - Service requirements for digital sound broadcasting at frequencies below 30 MHz	Provisionally adopted (Normal)
341	WP6A	Draft revision to Recommendation ITU-R BS.774-2 - Service requirements for digital sound broadcasting to vehicular, portable and fixed receivers using terrestrial transmitters in the VHF/UHF bands	Provisionally adopted (Normal)
342	WP6A	Draft new Report ITU-R BS.[ASP-FM] - Impact of audio signal processing and compression techniques on terrestrial FM sound broadcasting emissions at VHF	Approved
343	WP6A	Draft new Report BS.[PLAN_PAR] - Planning parameters for terrestrial digital sound broadcasting systems in VHF bands	Approved

入力文書 番号(6/)	提出元	題 名	措置
344	WP6A	Draft revision of Recommendation ITU-R BS.1114-6 - Systems for terrestrial digital sound broadcasting to vehicular, portable and fixed receivers in the frequency range 30-3 000 MHz	Provisionally adopted (Normal)
345	WP6A	Draft revision of Question ITU-R 132-1/6 - Digital terrestrial television broadcasting planning	Adopted (Normal)
346	WP6A	Draft revision of Recommendation ITU-R BT.1306 - Error-correction, data framing, modulation and emission methods for digital terrestrial television broadcasting	Provisionally adopted (Normal)
347	WP6A	Draft new Report - Measurements of protection ratios and overload thresholds for broadcast TV receivers	Approved
348	WP6A	Proposal to add a broadcasting term, acronym and definition to the ITU terminology database	Sent to CCV
349	WP6A	Revision of Report ITU-R BT.2140-2 - Transmission from analogue to digital terrestrial broadcasting	Approved
350	WP6A	Revision to Recommendation ITU-R BT.1871 - User requirements for wireless microphones	Approved as an editorial revision
351	WP6A	Revision of Report ITU-R BT.2069 - Tuning ranges and operational characteristics of terrestrial electronic news gathering (ENG), television outside broadcast (TVOB) and electronic field production (EFP) systems	Approved
352	WP6A	Draft revision of Recommendation ITU-R BT.1368-8 - Planning criteria, including protection ratios, for digital terrestrial television services in the VHF/UHF bands	Provisionally adopted (Normal)
353	WP6C	Draft new Report ITU-R BT.[TESTMATERIAL] - Test materials for assessment of picture quality	Sent back to WP6C for review
354	WP6C	Draft revision of Recommendation ITU-R BT.1210-3 - Test materials to be used in subjective assessment of picture quality	Sent back to WP6C for review
355	Chairman, WP6B	Executive Report of the meeting of Working Party 6B	Presented and accepted to send the definition part to SG5
356	Chairman, WP6A	Executive Report of the meeting of Working Party 6A	Presented
357	Director, TSB	Information Document from TSB Director on "ITU-T Activities on ICT, Climate Change and the Environment"	Presented, discussed and set up Rapporteur
358(Rev.1)	BR Study Group Department	List of documents issued	-----
359	WP6C	Draft revision of Report ITU-R BS.2159 - Multichannel sound technology in home and broadcasting applications	Approved
360	WP6C	Draft new Report ITU-R BT.[PSYCHOPHYSICS] - A perspective of the hierarchy of digital television image systems based on the human viewing behaviour	Approved
361	WP6C	Revision of Questions ITU-R 44-3/6 and 102/6	Adopted (Normal)
362	WP6C	Suppression of Recommendation ITU-R BT.1382 - Assessment of the picture quality of multi-programme services	Agreed to the deletion
363	WP6C	Draft revision of Recommendation ITU-R BS.1770-2 - Algorithms to measure audio programme loudness and true-peak audio level	Provisionally adopted (Normal)
364	WP6C	Draft new Report ITU-R BS.[1770CONFORMANCE] - Conformance material for ITU-R BS.1770	Approved
365	WP6C	Broadcasting terms, acronyms or definitions to the ITU terminology database	Sent to CCV
366	WP6C	Draft revision of Report ITU-R BT.2207 - Accessibility to broadcasting services for persons with disabilities	Approved
367	WP6C	Proposed suppression of Recommendation ITU-R BT.811	Agreed to the deletion
368	WP6C	Draft revision of Report ITU-R BS.2054-1 - Audio levels and loudness	Approved
369	Chairman, WP6C	Executive Report of the meeting of Working Party 6C (Geneva, 16-20 May 2011)	Presented
370	Director, BR	Final List of Participants - Study Group 6 (Geneva, 23-24 May 2011)	-----